

11 2010

趣味の園芸

趣味の園芸ビギナーズ

これから楽しむ冬の植物ほか

※ バラの大苗の選び方
 ※ 冬越しの防寒アイデア
 ※ パンジー、ビオラ
 ※ ポインセチア

特集

小さなシクラメン

※ 寄せ植えても大活躍！
 ※ 庭で楽しむ原種シクラメン

連載

「源氏物語の花々
瀬戸内寂聴

絵 石踊達哉



教育テレビ

趣味の園芸

放送 毎週日曜日 午前8:30 → 8:55

再放送 毎週金曜日 午後9:00 → 9:25

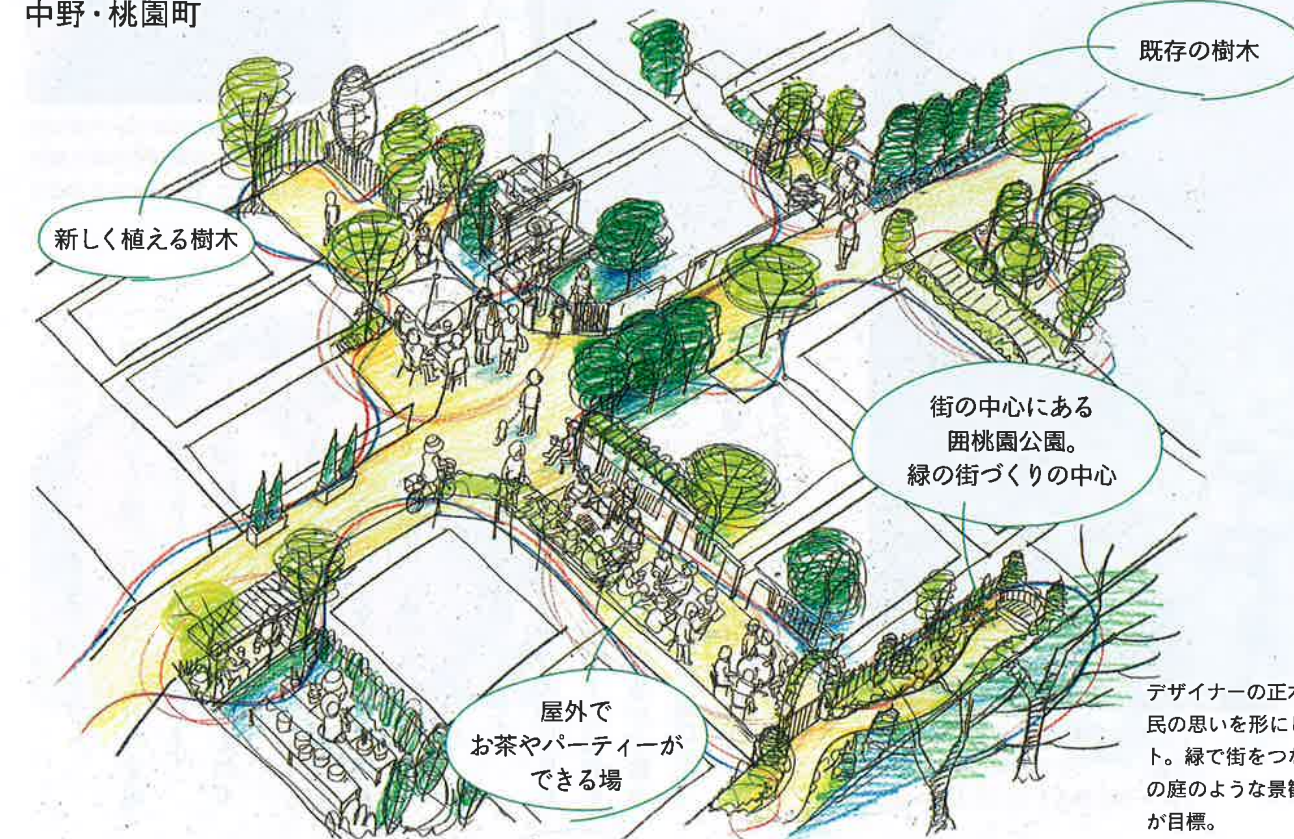
趣味の園芸ビギナーズ

放送 毎週日曜日 午前8:25 → 8:30

再放送 毎週金曜日 午後9:25 → 9:30

緑豊かな街をつくろう ①

中野・桃園町



デザイナーの正木さんが住民の思いを形にしたイラスト。緑で街をつなぎ、一つの庭のような景観にするのが目標。

一軒一軒の緑がつながって、街全体に広がれば、緑豊かな街になります。町内会、行政、環境デザイナーが一体となった新しい緑化活動の例を紹介します。

正木 覚 [環境デザイナー]

一口に緑化といっても、個々が思い思いに樹木や草花を植えただけでは、緑の数は増えても、景観としての足並みはそろいません。そんな住宅街の緑化の難しさを克服したモデルケースが、東京・中野区の桃園町会です。成功の秘訣は「向こう三軒両隣方式」。景観的に三軒以上がつながって見るところの住民が、セミナーやワークショップで緑のある暮らしへの思いを出し合い、環境デザイナーの正木さんがプロの視点で形にして、植栽工事を行っています。緑化の効果を体感した三軒から次の三軒へ、緑の輪、人の輪が広がり、街に新しいコミュニケーションが生まれています。

case 1 細田邸

武蔵野の雑木林をイメージして株立ちのハウチワカエデを植栽。木は光や風をコントロールして住まいを快適にする「微気候」の役割も担います。個人の心地よい住まいが、居心地のよい街の景観につながります。



Before もともと緑は多かったが、核になる樹木がなく、道路から家の中が丸見えで窓が開けられなかった。



After 樹木の下で立ち話をしたくなるような、緑の空間が誕生。樹木の株元で、細田さんが山野草や宿根草などを育てて楽しんでいる。

道路際に樹木を植える際は樹高だけでなく、葉張りも考慮することが大切。樹種選びはデザイナーに一任。

緑でつくる
快適な住まいがつながって
居心地のよい街の景観に。

case 2 篠原邸

向こう三軒両隣方式で、細田邸とともに植栽工事をした篠原邸。細田邸とのつながりで、樹木の1本はモミジにしました。ナチュラルな雑木は、和洋どちらの建物にも合います。



Before 玄関前でガーデニングを楽しんでいる。若い夫婦なので、将来家の使い方が変わることも考えて、樹木は地植えではなくコンテナ植えを希望。



After 大型のメッシュコンテナに、ヤマモミジ(左)と、子どもが喜ぶジューンベリー(左)を植栽。食べられる実ものは住民に人気。



まさき・さとる
1952年、福岡県生まれ。武蔵野美術大学卒業。植木職、造園設計会社を経て、現在はガーデンデザイン事務所代表。心地よさを求めた庭のデザイン・設計、環境共生住宅開発、まちづくりに取り組む。教育機関や企業研修などで講師も務める。初代JAG(ジャパンガーデナーズ協会)会長。